

の結果、南米側は全同労働組合同盟へ、南西側は日本労働総同盟へと各々別個に合同する事に決定し、更に将来、總同盟と全同労働の兩者向う合同に努力することを中心として、左記の如き合同誓明書を發表した。

以上の如く、日本労働同盟は事實上、全分へ赴く南米側、總同盟へ赴く南西側、合同口説き及ぶして拜望して同盟の同盟を守り一派と三派へ分解作用を起した。

誓 明 書

我日本労働同盟本年度全同大會は日本資本主義現下の急激的状態を痛確に批判し以て之に順應するをめの労働組合連合の任務を、分散并立抗争状態に放置すべからず我同労働組合戦線の一整備を緊急不可放の宿